

第2章 情報企画室図書担当

【構成員】

担当教授(兼):米永 一郎

図書係長:堀野 正太/図書系職員:池 美沙子/事務補佐員[3名]

【図書整備委員会】

委員長 准教授:小泉 雄一郎

委員 准教授:野村 健太郎

助教:鈴木 謙介, 出浦 桃子, 高坂 亘, 野澤 純, 柏倉 俊介, 小黒 英俊

オブザーバー 教授:米永 一郎

総務課長:石井 俊明

1. はじめに

図書室は、1800年代から今日までの材料科学に関する幅広い領域の資料を収集・所蔵し、充実した専門資料をもとに、所内・学内はもとより国内外の研究者に幅広いサービスを提供している。研究環境が変化し、多様化する現在においても利用者ニーズを的確に把握し、かつ、親しみやすく快適な図書室であることを目指している。

2. 組織・運営

図書室は図書係として事務部総務課に属し、係長を含む職員2名と事務補佐員3名の体制で業務を行っている。また図書室は情報企画室のもと、図書整備委員会とも連携して運営されている。

図書整備委員会は所内若手教員を中心に構成され、研究者の視点から、専門資料の選定やデータベース環境の整備について図書室に助言を行うとともに、利用者への広報活動やガイダンスおよびオリエンテーションの実施などにおいても図書室に協力している。このように研究者と図書室が連携して情報整備を行う委員会の存在は、学内他部局にはない本所の特徴と言える。

また、図書室は、附属図書館本館および各分館・図書室と緊密な連絡を取りつつ図書業務を遂行するとともに、部局図書室として唯一、本館を介さずに図書購入・支払・目録登録を行う業務体制をとっている。その結果、研究者へ迅速に資料を提供することが可能となっている。

3. 電子ジャーナルの問題

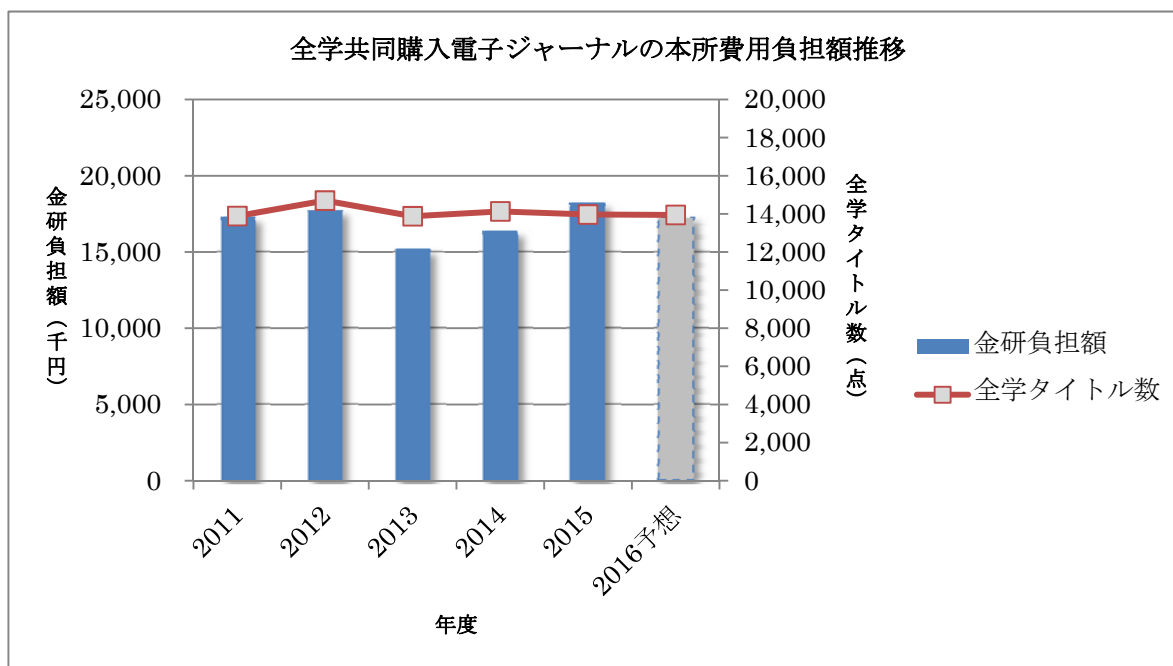
本学は、2001年のAPS（アメリカ物理学会：American Physical Society）誌の共同購入をはじめに、附属図書館の「学術情報整備計画」のもと、電子ジャーナルや二次情報データベースの整備を段階的に進めてきた。また、学術誌やデータベースの価格高騰に対処するため、主要出版社と価格交渉を行っ

ている。

図書室ではこの整備計画に沿って冊子体を中止し、電子ジャーナルのみを契約するなど、外国雑誌の経費抑制のため、努力を続けてきた。その結果、現在は図書室が契約するタイトルの9割以上が電子ジャーナルのみの契約に移行している。

しかし、このような努力にもかかわらず、本学全体の電子ジャーナル経費は、価格の定常的な上昇に加えて近年の政策としての円安誘導により、その増大に一層の拍車がかかっている。さらに今後は、消費税率の引き上げが予定されているため更なる経費増が見込まれる。このように電子ジャーナルの経費をめぐってはまったく予断を許さない状況が続いており、全学的な総意にもとづいた、限られた財源での電子ジャーナル利用の在り方に関する、抜本的な対策を図ることが必要となっている。

また、電子ジャーナルを利用する上では、ルールに従って適切に利用することが不可欠である。不正アクセスが発覚すると、そのアクセスに対し適正な処置が取られるまでの間、所内または大学全体の電子ジャーナルの利用が停止される場合があり、研究活動に甚大な被害を与える。図書室では毎年、適正な利用を心がけるように利用者に注意を促しているが、今後さらに周知を徹底していきたい。



*2013年度の金研負担額の低下は、学内部局間の経費負担方法の変更によるものである。

4. 蔵書管理

4.1 図書の充実

限られた予算の有効活用の一環として図書整備委員および研究室からの図書の推薦や、新刊案内などを参考に、物質・材料科学研究に有意な図書を購入し、蔵書の充実を目指している。また、研究室や研究者が個別では購入しにくいシリーズ本やハンドブック、データ集、国際会議録なども必要に応じて購入し、2015年度は合計266点の図書を購入した。なお、図書が有効に活用されるよう、閲覧室での展示やTwitterによる新着図書案内等の広報に努めている。

また、電子ブックの整備は適宜検討しながら実施しており、図書室の予算による購入点数は、2015

年度末現在までの累計で 118 点となっている。これらはすべて蔵書検索システム(OPAC)から検索することが可能である。他館でも電子ブックの購入が進められ、大学全体で利用できるタイトル数は 3,353 点を数える。近年、欧米の出版社では、学術図書や教科書などを電子ブックによって刊行することが一般的となっており、日本の出版社においても紙媒体から電子ブックへの転換がますます進んでいる。そのような変化や情報環境の進展を見極め、適切に蔵書の充実を進めることは、図書室の役割である。

4.2 蔵書点検

毎年 2 回、蔵書の定期点検を行い、不明図書・発見図書の確認や配架整備を行っている。図書は共有財産であることから、今後も貸出手続の徹底や返却期限の厳守を呼びかけていきたい。

4.3 金研出版物の保存・公開

金研で発行される報告書や広報誌などは、可能な限り図書室で収集・保存し、専用のコーナーを設けて利用に供している。また、本年は金研百周年目であることから、所内刊行物に対する問い合わせも増えており、過去に発行された分も収集・保存することを検討している。さらに、所内関係部署との協力・連携のもと、所内刊行物を東北大学機関リポジトリ TOUR に登録し、公開するよう働きかけていきたい。

5. 利用者サービスの充実

学生や教職員と図書室スタッフとの距離が近い部局図書室の特徴を活かし、利用者にとってより身近で、行き届いたサービスを提供するよう、スタッフ全員で努力している。

5.1 利用者向け講習会

毎年春に金研の新構成員のため、図書整備委員を講師とした主要データベースの講習と、図書室利用案内を組み合わせたオリエンテーションを行っている。2015 年度は新大学院生を中心に 49 名の参加があった。講習内容は毎年見直しを行い、利用頻度の高いデータベースを取り上げている。

図書室オリエンテーション (2015 年 4 月 27 日 (月) 開催、49 名参加)

- ・ 図書室利用案内およびオンラインサービス紹介
- ・ 各種データベース利用講習 (ICDD、Alloy Phase Diagrams、SciFinder、Int. Tables for Crystallography、ICSD、Phase Equilibria Diagrams、Web of Science、Scopus、CiNii)

5.2 情報検索コーナー

図書室では図書整備委員会のサポートを受けながら、多くのデータベースの中から有用なものを厳選し、図書室の情報検索コーナーで利用者が常時使えるように環境を整えている。

また、図書閲覧室の情報検索用パソコン 5 台のうち 1 台は多言語表示に対応している。パソコンの安全対策として、ウィルス対策ソフトとハードディスク保護ソフトを導入している。今後も、図書整備委員会との連携のもとでデータベースのオンライン化や利用環境の改善に努めたい。

| オンライン | CD-ROM |
|---|---|
| Alloy Phase Diagrams Online ICSD International Tables for Crystallography Phase Equilibria Diagrams Online *以下は全学で導入 CiNii, KAKEN, Scopus, SciFinder、 Web of Science など | ICDD Cards (Powder Diffraction File) Pauling File Pearson's Crystal Data CRC Handbook of Chemistry & Physics 鉄鋼便覧 Database of Titanium Properties など |

5.3 『情報検索の手引き』の刊行

図書整備委員会と図書係は、研究活動に欠かすことのできないデータベースやツールの利用マニュアル『情報検索の手引き』を作成・提供している。この『情報検索の手引き』は1997年以降隔年で改訂し、2015年3月には第9版を刊行した。第9版では記述の内容の全面的な見直しを行い、最新の情報を反映するよう努めた。

『情報検索の手引き』は各研究室やオリエンテーションの参加者、および希望者に配布するほか、図書室の情報検索コーナーに備え付け、いつでも利用できるようにしている。また、電子版を図書室ホームページ上において所内限定で公開している。

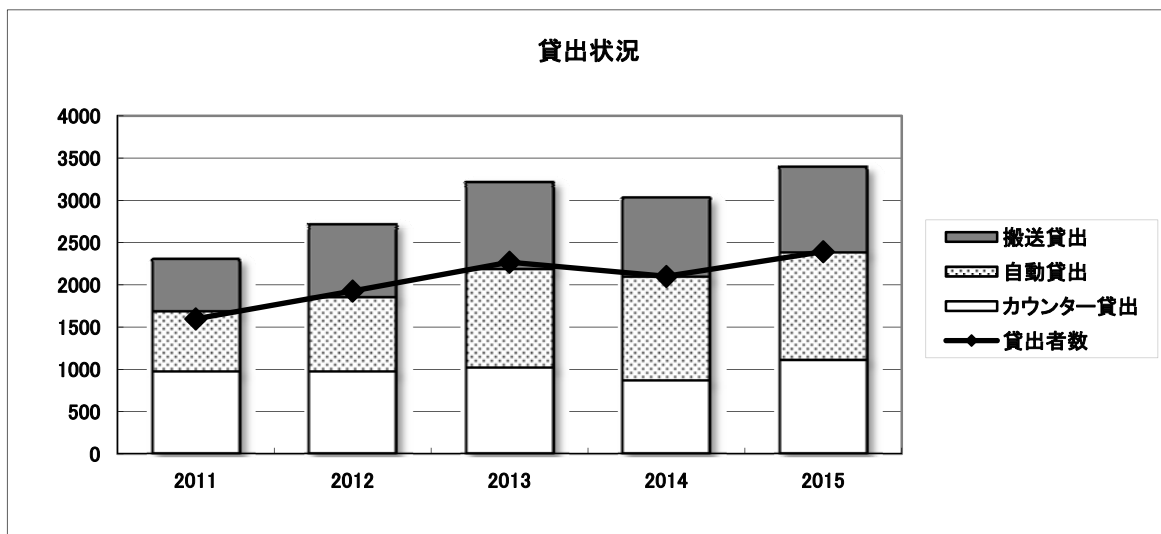
研究者である図書整備委員が、自身の研究活動に基づいて執筆したマニュアルは金研の構成員にとって極めて有用である。今後もより使いやすい『手引き』へと更新していきたい。

5.4 「金研図書室だより」の発行

学術情報や図書室最新情報の広報のため、「金研図書室だより」を年2～3回発行している。これまでのホームページによる広報とは別に、印刷物として配布し図書室利用者の便宜向上を目指している。

5.5 資料の貸出

2015年度は、いずれも延べ数で、図書の貸出冊数が3,393冊、貸出者数が2,392人となった。それぞれ前年度より1割ほど増加しており、統計の残る2004年以降最多となっている。このように貸出冊数・貸出者数ともに増加している背景には、教員・学生からの推薦によって蔵書の充実に努めていること、また、2011年度より自動貸出装置を夜間と休日も稼働させ、24時間貸出の手続きを行えるようになってきていること、さらに、学内他館資料を無料で取寄せられるキャンパス間資料搬送サービスが利用者に浸透してきたことなどを挙げることができる。この搬送サービスを利用した図書の貸出冊数は1,011冊であり、総貸出冊数の約3割を占める。今後、搬送サービスを利用した貸出実績の多い図書のうち、金研図書室の蔵書にふさわしいものは積極的に購入・収蔵するなどの対応が課題となるだろう。



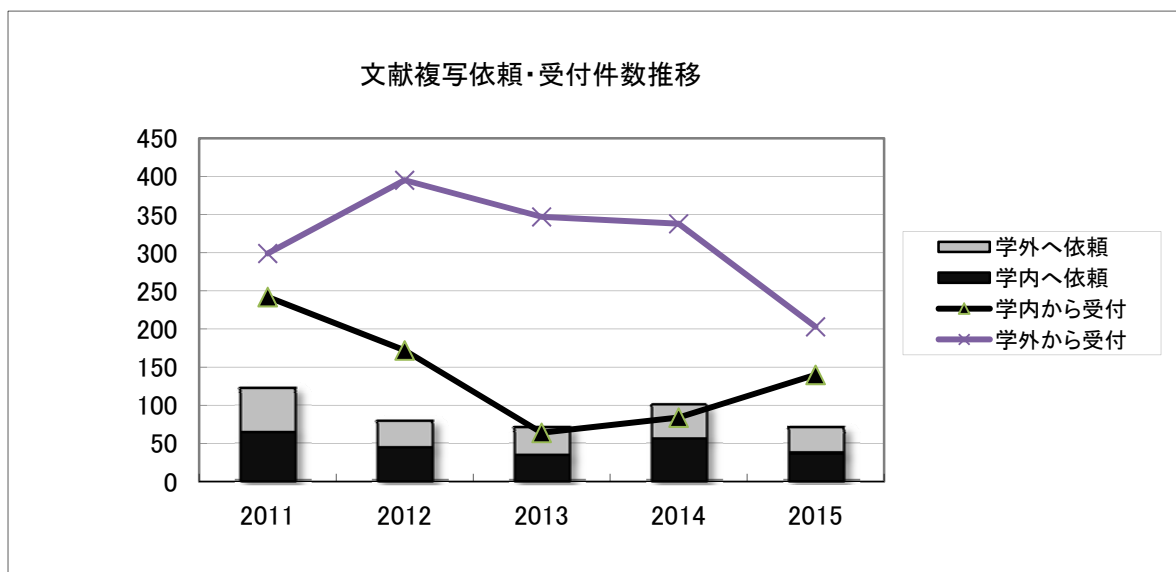
5. 6 利用環境・施設の整備

施設の利用環境整備として、閲覧室照明の一部 LED 化、閲覧席へのデスクライト設置、電動集密書架の耐震性強化のための棚板交換を行った。また、書庫の狭隘化対策のため、今後利用の見込まれない重複図書約 103 冊を処分した。なお書庫の狭隘化は蔵書の充実と表裏の関係であるため、重複図書の処分を引き続き行っていく必要がある。

6. 文献複写・現物貸借（図書館間相互利用サービス）

学内の各図書館および学外他大学図書館との相互文献複写サービスは、教員や学生の研究・学習を支える図書室の重要な業務の一つである。そこで図書室では利用者へ迅速に文献を手渡せるよう努め、また、2013 年度より他の図書館へ依頼する文献複写の費用を図書室が負担する試みを行っている。

2011 年度から実施している他大学図書館との図書現物の貸借は、貸出・借受ともに年間 10 件前後ではあるが、継続的に利用されているので制度として定着してきたと言える。



7. その他

研究支援の役割を着実に果たし、また利用者のニーズに応えた多様なサービスを提供するため、図書室職員は各種研修会に積極的に参加している。また図書系職員として、図書館本館が中心になって進めている各種委員会やワーキンググループのメンバーの一員として活動している。

7.1 研修等

- ・ 目録システム講習会
- ・ 図書館職員総合研修
- ・ 事務情報化講習会

7.2 各種委員会、ワーキンググループ(WG)、会議等

- ・ 図書館情報教育支援 WG
- ・ 附属図書館部課長打合せ
- ・ 附属図書館商議会（陪席）
- ・ 附属図書館運営会議（陪席）
- ・ 学術情報整備検討委員会（陪席）

8. 統計（平成 27 年度）

■施設

| 総面積 | 書架総延長 | 図書収容能力 | 総閲覧座席数 | パソコン台数 | 複写機台数 |
|--------------------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 534 m ² | 2.39km | 6.6 万冊 | 50 席 | 6 台 | 4 台 |

■資料

| | | 和書 | 洋書 | 合計 | |
|----|--------------|----------|----------|----------|----------------|
| 蔵書 | 蔵書冊数 | 19,577 冊 | 64,532 冊 | 84,109 冊 | *開架冊数:53,867 冊 |
| | 年間受入冊数 | 200 冊 | 180 冊 | 380 冊 | |
| 雑誌 | 雑誌種類数 | 451 種 | 1036 種 | 1,487 種 | |
| | 年間受入雑誌種類数 | 145 種 | 131 種 | 276 種 | |
| | 電子ジャーナル数(全学) | 575 種 | 13,396 種 | 13,971 種 | |
| | 新聞種類数 | 6 種 | 1 種 | 7 種 | |

*蔵書は研究室貸出分や製本雑誌を含む

*受入：購入・受贈・保管場所変更等により図書室の蔵書として登録すること

■サービス

| 開室日数 (有人) | サービス対象 | | 入室者 | 貸出 | | 文献複写 | | 現物貸借 | |
|--------------|--------|-------|----------|---------|-----------|------|-------|------|------|
| | 教職員 | 学生 | | 貸出 | (うち搬送) | 依頼 | 発送 | 借用 | 貸出 |
| 238 日 | 347 人 | 225 人 | 13,205 人 | 3,393 冊 | (1,011 冊) | 71 件 | 343 件 | 12 件 | 13 件 |

*開室日数は有人の日数のみ